

# 松城家住宅の 特徴

松城家住宅は、江戸時代から廻船業を営み財を成した松城家の居宅として明治6年に棟上げされました。建築様式は擬洋風建築と呼ばれ、幕末から明治初期のわずかな期間にのみ建築された貴重なものであり、松城家住宅は日本に現存する擬洋風建築の中でも最初期のものです。

敷地内に現存する建屋は、主屋・ミセ・文庫蔵・東土蔵・北土蔵の計5棟となっています。主屋は、擬洋風建築の造りとなっており、1階が和風、2階が洋風の装いとなっています。動線で上客と家人とを分けており、ホンゲンカン・オザシキ・ジョウダンノマは家長と上客用のエリアとなっています。当時は家族でもほとんど入ることが許されなかったといえます。便所も来客用と家人用と別れています。2階は洋風の装いとなっており、前の間とつながる4間の天井には外国産の壁紙が張られ、洋風の装いとなっています。どの部屋も床は畳敷きという和洋折衷の空間となっています。また、龍の間も特徴的な部屋で、漆喰塗込めとなっており当時の日本建築にはない装いです。外観は、南面にバルコニーを配し、東面の屋根には煙突を設置しています。石積風の外壁やトスカーナ風の円柱、鎧窓を左官の技術により表現しており、洋風建築の外観となっています。

## 重要文化財の指定内容

平成18年7月5日 文部科学省告示第93号  
主屋 建築面積266.76㎡ 木造2階建 棧瓦葺  
附棟札1枚  
ミセ 建築面積32.23㎡ 木造2階建 棧瓦葺  
文庫蔵 建築面積16.52㎡ 土蔵造2階建 棧瓦葺  
東土蔵 建築面積39.66㎡ 土蔵造2階建 棧瓦葺  
北土蔵 建築面積32.23㎡ 土蔵造2階建 棧瓦葺  
門柱及び外堀 折曲り延長81.4m 石造り  
庭門及び堀 延長8.0m 石造り  
家相図2枚 (明治5年仲春)  
土地 2045.44㎡ 池、井戸、石垣を含む

## 開館時間

午前9時から午後4時30分まで  
(入館は午後4時まで)

## 休館日

水曜日(水曜日が休日の場合は翌日)  
年末年始(12月31日・1月1日)

## 入館料

	個人	団体
大人(高校生以上)	300円	200円
小人(小中学生)	100円	50円

※市内の小中学生は無料

## 案内図

自家用車 沼津ICから1時間35分

バス 伊豆箱根鉄道駿豆線修善寺駅から50分



## お問い合わせ先

〒410-3402 静岡県沼津市戸田72  
TEL 055-935-5010 (文化財センター)  
FAX 055-933-1270 (文化財センター)

所管 沼津市教育委員会事務局文化振興課 (文化財センター)

重要文化財

# 松城家住宅



**文庫蔵** 大切な書物（帳簿）や貴重品の保管場所として整備されており、明治15年に増築された蔵前に納められた金庫は蔵前の建築と同時に設置されています。2階は畳敷きの部屋として整備されており、松城家住宅の蔵の中では最も格の高い内装です。

**東土蔵** 敷地入り口から見えるため海鼠壁も含め、黒漆喰塗の格式高い仕様となっています。質蔵として使用していたことから2階には収蔵用の棚が設置されており、天井は漆喰塗となっています。

**北土蔵** 内部が2部屋に分かれており、味噌や漬物などの貯蔵庫として使用されていました。そのため、蔵の格としては最も低いものとなっています。

**ミセ** 帳場として使用されており、2階は使用人が暮らせるよう天井高の低い造りとなっています。

**バルコニー** 明治から大正時代にかけて設置されていたバルコニーを復元したものです。建築当初は見様見真似で設置していたため、簡易的な造りとなっていました。保存修理工事以前にはすでに撤去されていたが、復元した。

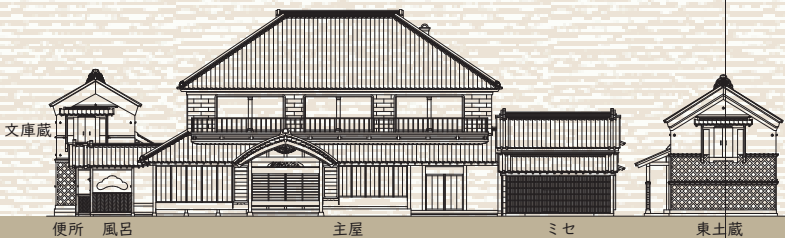
**鎧窓** 主屋西面に設置されています。本物は南側の1つのみで残り2つは漆喰により作られた見せかけだけのものです。北側の一つは、上部のファンライト部分を取り外せるようになっています。

# 入江長八の漆喰曼絵

主屋の随所に配された漆喰曼絵。一部の作品には入江長八の落款があることから、他の作品もその一派が手掛けたとされています。

2階にある「雨中の虎」は明治9年の作品であることから、主屋は棟上げから3年ほどかけて完成されたと推測されます。

ランプ掛けの作品(①~⑥)は全て建築当時に設置されたもので、平成28年からの保存修理工事の調査で、後からはめたものではないことが確認されています。



本物



⑦唐草



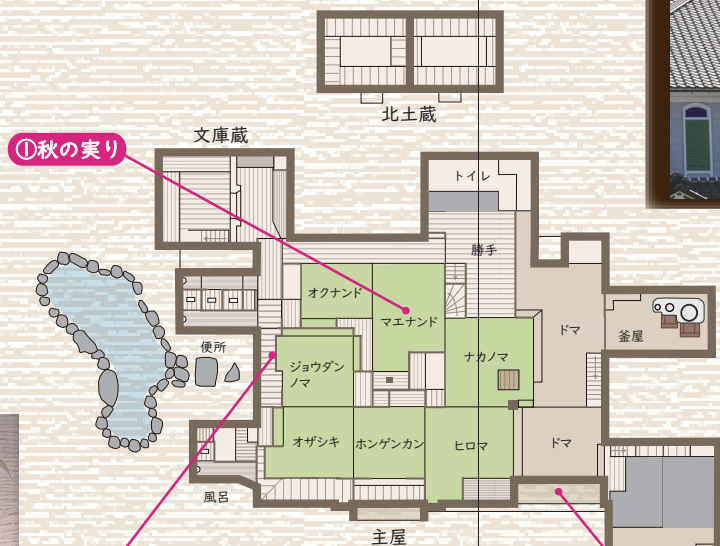
⑤龍



⑥松竹梅

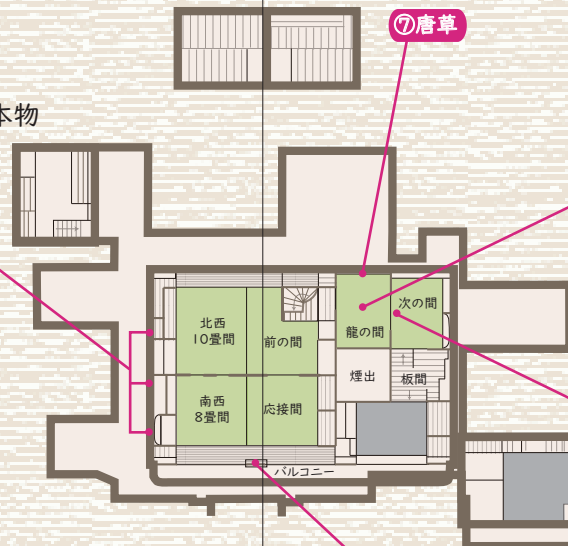


④雨中の虎



1階

鎧窓



2階

③牡丹

